
まあ・・・そんな道もありますよ・・・

二天

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

まあ・・・そんな道もありますよ・・・

【Nコード】

N9307J

【作者名】

二天

【あらすじ】

主人公が散歩に出かけます。

その散歩でいろんなことを体験し、いろんな気持ちになったりします。

皆さんを主人公と一緒に散歩をしていただく、そんな作品です。

あなたの自慢はなんですか？

「俺の自慢・・・うーん、半袖半ズボン生活12年!!」

あなたのダメなところはなんですか？

「ダメなところ・・・ダメダメすぎて言い切れません」

最後に、あなたの未来はどんな未来だと思いますか？

「真つ暗です!!」

この世に生まれて十何年、俺は変な人間になっていた。

たった今、自分らしさを見つけるため、自分で自分に聞き、問うてみたのだが、結果はご覧の通りである。

「ダメじゃん」そういわれても仕方が無い。自分でさえそう思うからである。

将来の夢も持たず、考えも子供で知恵もやる気も無い。

そんな俺である。

と、同時にこの世の純粹で美しい空気を吸い、その空気を最も汚い、最悪なものに変換させている本人でもある。ある意味犯罪者だろう。

さて、空気破壊人、俺はどういうわけか今、散歩にはまっている。

ひとつ世界が厳しかったら牢屋行きな行為である。俺が散歩だなんて、他人からしてみれば迷惑千万。一生暗い地面の中で眠ってる。

と言いたくなるだろう。

・・・でもはまっているのだ。仕方が無いじゃないか。人間誰にだって1つくらい趣味があるものである。俺にとっての散歩は人生で一番大切な行事なのだ。

そんなわけで、さっきの自己質問の結果で溜まったストレスを解消すると言う理由も含めて、今日も散歩に出ることにした。

「いつてつきまーっす!!!」

玄関を出て、上を見上げると空が、スクリーン一面に美しい水色で描かれているではないか。

ああなんて綺麗なんだ。空気破壊人が全力で努力しても決して破壊できないだろう。美しい。

俺は感動しながらグレーの道を歩いていく。そのとき全く前を見ていなかったので何度犬の糞をふんずけそうになったか、何度電柱に体の特攻させたか、数え切れない。

感動と、痛みと、泣きたくなる様な思いを楽しみながらしばらく歩いていくといつの間にか周り是一片田んぼになっていた。そこで一人のクソ坊主に会った。

「おおい、タニシやろう!」

クソ坊主が元気な声で叫んだ。

恥ずかしい事ながら俺のあだ名である。クソ坊主が命名した。俺とクソ坊主は「何故か気づいたら話すようになった」、と言う仲であり、お互いに名前も知らないし友達でもないはずである。もう1つ言えば、歳だって向こうは7歳くらい年下だ。

クソ坊主は、おそらく人ん家の田んぼであろう、その田んぼに入り、なにやら何かを取っている。

「なんだあ！クソ坊主、今日は何してんだ？」

「ああ？タニシ取ってた、あんたにぴったりだ、あはは」

クソ坊主め・・・ひとを馬鹿にするのもいい加減にしろ。大声で叫びたかったが我慢し、心の中で思いつきり罵った。

と言うのは、もしここで叫んでしまったらクソ坊主は怒って田んぼの中の泥を投げてくるだろうと思ったからである。

ここで神聖な行事を泥に汚されては溜まったもんじゃない。だから心の中で罵ることにしたのだ。この発想は天才的な発想だと思うのだが、どうだろう・・・

「タニシかあ・・・まあせいぜい沢山取れるように頑張ってくれたまえ」

「おう、あんがとな。そいじゃ」

そう言っただけ俺達は別れた。俺は彼が見えなくなったとき、思いつきり叫んだ。

「タニシに食われちまえーーーー！！！！」

・・・さて未だに田んぼ風景だ。クソ坊主と別れて20分は経っただろう。

温かい風、田んぼの独特な牛糞の香り、水色で塗られた空。

気持ちがいい。まるで心が洗われていくようだ。
俺はなんとなく、なんとなくだが、なんとなく、今の自分の生き方を見つめた。

俺、どんな人間だろう・・・

実はこの空のように澄んだ心を持っていたりして・・・

牛糞みたいにくっさい手使って人を困らせたことなんかないよ
な・・・

純粹だ

信じがたい発言だが、まあ俺はそういう風に思う。

「ただの自己満足だろ」・・・うるさい、今俺は非常に気持ちがいいのだ。

「自分を振り返る」という自己催眠とまわりの美しい景色の中である。俺は天国に旅行しているような気分を味わっているのだ。

あれ？ふと思っただが山の中ではないか！！

どうしてここに？あまりに催眠が強くて無意識で歩いていたら・・・
・そしたらこんなところに・・・
いけない、戻らなくては・・・

おおあれは蛇！！

あ！いてー！！蚊に刺された！！

うわー！！あつぷねえ、崖からおちっとこだった

・・・

・・・

いやいやひどい目にあった。

まさか山の中に行つてしまつとは。

まあ、多少いろんな目にあつたが、無事に山からでることができた。
ほんとに良かった良かった。

さて、ここはと言うと周りは家が建っていて木々などの緑がなく冷たい景色だ。それらを眺めてもう家の近くであることが分かった。
・・・なんだか寂しい気持ちだ。

「あれ？ああ！！おおっい」

いきなり後ろから高い声がし、驚いて振り返つた。見ると、白ぢゃんがちつこい犬を連れてそこにいた。

あ、白ちゃんというのは恥ずかしいことに俺の好きな人。

白ちゃんの白は苗字でもなければ名前でもない。じゃあ何かと聞けば気持ちよく答えよう・・・それは俺の思う彼女のイメージカラーである。彼女はぜったい白！！

「あ、やっぱり！！何してるの？」

綺麗な声だ。ついついつとりしてしまう。・・・しかしここはか
つこつけなければ！！

「え？ああ・・・小鳥達と話し合いながら平和に散歩しているのさ」

「平和に散歩」と聞いておかしい！！と思った方は正しい！！今ま
であまり良い体験をしていないのだから・・・
しかしここは同情して応援をしてください！！俺今一生懸命なん
です！！

「小鳥と？へえー面白いなあ・・・あたしはねえ愛犬と散歩」

「おお！！これはこれは！！あまりの小ささに気づかなかった！！
可愛い愛犬さん、どうも」

「ねえかわいいでしょ、ほんつとにかわいいでしょ」

そのとき、俺は犬を眺めたのだが、ひどいったらありゃしない。こ
のクソ犬め、俺に向かって思いつきり牙を剥いてやがる。

・・・しかし白ちゃんの前でそんなこと、顔に表すのは持つての外。
演技を続けなければ・・・

「ほんつとに強そうで・・・たくましそうな犬だ」

「この子、メスなんだけど・・・あ、そろそろ行かなきゃ！じゃあ
ね」

「あ・・・うん、ばいばい」

俺の演技、いかがだっただろうか？あまーく採点してほしいな・・・
まあ、俺は彼女の後姿を見送った。自然と目が細くなっていくのは
きつと、彼女があまりに可愛くてうっちよりしてしまうからである
う。うっちよりうっちより・・・

彼女はだんだん遠くなる。俺はだんだん好きになる。
そんな幸せな時間を味わっていた時だった。

あ・・・

そんな・・・

俺は一気に目が開き、口が開き、ついでに鼻も開き開き・・・

いきなりどうしたかと言うと・・・

彼女を目で追っていったら・・・彼女の先に男の人がいて・・・
彼女はその男の人と仲良く歩き出して・・・
手だつてつないじゃって・・・

・・・俺は白くなった・・・

「・・・これからあの人のこと、黒さんと呼ぼう・・・」

あの人とは誰か・・・

そんなこと聞かないでくれ・・・

俺はゆっくりと歩き出した。自分の家に向かって・・・

俺、これから良い人生を過ごそう・・・

変な友達作って、一緒に田んぼやら川やら溝やら、いろんなところへ行こう。

時には迷うこともあるだろう、そんなときは思いっきり迷って思いっきり心に傷を負いながら精一杯そのときを乗り越えよう

そして良い人に出会って、その人がばあさんになった時、俺の死に顔をしっかりと見届けてもらおうんだ。

散歩はやっぱりいいな。

家に着き、ちょっと上を見ると屋根やら壁やら、全体がもつぐつちよぐつちよに歪んでいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9307j/>

まあ・・・そんな道もありますよ・・・

2011年1月15日23時30分発行